

第6回施設建設選定部会（第1部会）

招集年月日	平成19年8月22日（水）					
招集場所	八重瀬町東風平農村改善センター 2階ホール					
開会時間	午後2時00分					
閉会時間	午後4時20分					
出席員 及び 欠席委員 〔出席委員 13名〕 〔欠席委員 1名〕	委員 番号	氏 名	出 席 の 別	委員 番号	氏 名	出 席 の 別
	1	赤嶺要善	○	9	大城秀雄	○
	2	与那嶺紘也	○	10	城間精善	○
	3	伊集守和	○	11	知名定一	○
	4	津嘉山齐	○	12	照屋義実	○
	5	宮平正和	×	13	山口修	○
	6	上田規子	○	14	諸見里米子	○
	7	川井義喜	○	15		
	8	大城順子	○			
会議に出席した 事務局の職・氏名	事務局長	玉寄長市				
	総務課長	知花賢正				
	室長	山城匡				
	主任	知念正樹				
	主事	國場篤志				
	広報	名嘉山博				
その他会議に 出席した者	マスコミ	琉球新報、沖縄タイムス				
会議に付した事件 及び議決内容	別紙のとおり					
	・宮平委員は理事会との合同会議より出席					

第6回施設建設選定部会（第1部会）

会 議 録

【前回会議よりの確認】

1. 議事録の確認……………資料－1

【協議事項】

1. ごみ処理方式について……………資料－2

＜委員の意見等＞

- ・委員：ケース3については非常に疑問がある。現在糸豊含めて3施設との関連もあるので、ケース3はありえないと思う。
- ・委員：浦添市は処分場を持っていないが、必要だと話していた。ケース2に関して、処分場は必要最低限の大きさでいいのではないか。6万m³という規模が想定されている根拠もあればいいと思うが、今は処理方式を決めて、敷地面積とか、容量とかを更に細かく詰めるべきだと思う。
- ・委員：那覇市以外に電気式の灰溶融施設の事例は無い。保証期間が終了した後の様子も調べておく必要がある。浦添市は燃料方式だが、燃料の高騰で灯油からA重油に変えたと言っていた。灰溶融を採用するなら電気式しか無いと思う。
- ・委員：3施設を稼働させながら新たな大きな施設を建設する必要があるのか気になる所で、財政の立場からすると、果たして市町村の財政は持つのかという事も考えられる。
- ・委員：一旦最終処分場に保管しておいて、後日溶融したりする事は可能か。予算上、溶融と処分場の同時建設が出来ないなら、他の市町村に迷惑をかけているので、とりあえず最終処分場を造るべき。ガス化溶融は将来的に議論したほうがいい。
- ・委員：どの方式も一長一短で大変難しい選択になる。島尻の基幹改良との絡みもある。
- ・委員：これまでの失敗、時間的な問題から灰溶融も検討してもいいのではない。ただ、委員がおっしゃっていたように、将来的にガス化溶融施設も含めて考えられるのかどうか、討議する必要があると思う。
- ・委員：サザン協は糸満の離脱を受けて立ち上がっている。以前の南廃協の課題は南部地域における焼却残渣をどう処理するかという事から出発している。疑問に思うのは灰溶融施設ありきで進んできているように思う。原点は、自らのごみは自らで処理するという事、被覆型の最終処分場が必要という事ではなかったか。東部においては巨額の費用をかけて基幹改良している。浦添の課長も最終処分場はあった方がいい、いつ何時どういう災害があるか分からないと言っている。そうなった時の場所は絶対必要だ。だからと言って灰溶融施設がいらないという事ではない。最終処分場をとにかく造らざるを得ない。処分場を造ると言うことから出発している、それを論議すべきであって、灰溶融は日進月歩で将来改良もされていくと思う。あえて今同時にこれを造るのはコス

ト上各市町村金額的に耐えられるはずがない。無駄な施設になりかねない。今は3年以内にこれを造らないといけないという状況では無いと思う。ならば被覆型の最終処分場をまず造るべきだ。そこに一旦ストックしておいて、灰溶融施設を造ったときに掘り出して溶融しスラグ化していけばいいのではないか。やはり費用の問題が一番だと思うし、今ある施設は利用しなければならない。大小関わらず最終処分場は造らないといけない。灰溶融がいいのかガス化溶融がいいのかというのは次の議論だと思う。

- **委員**：もう一度糸満に働きかけてみてはどうか。理事会に話してみても。
- **委員**：糸満はこちらから説得する必要は無い。自力で出来るのか。首長は簡単に決断を下すべきではなかった。
- **委員**：既存の3施設では、糸豊の規模が一番大きいのでそれを中心に展開できるならありがたい。
- **委員**：糸満市は単独で施設建設を予定しているようだが補助は受けられるのか。
- **委員**：糸満市は2度も反対決議をしているし、単独で準備室を立ち上げている。私達5市町から頭を下げて入ってくださいというものでもない。もし戻るのであれば、持参金付きで無いと駄目というのも前回の視察ではっきりしていると思う。5市町は足蹴にされているわけだから何らかのペナルティが必要ではないか。頭を下げて戻ってくるなら迎え入れる余地はあるし、それを視野に入れて進めていく必要はあると思う。ただ、これほど糸満以外の5市町長を馬鹿にした話はない。
- **委員**：糸満との話し合いは必要だと思うが、頭を下げる必要は無いと思う。できれば糸満も入って欲しいが、こちらにもメンツがある。何名かの委員もおっしゃっていましたが、やはり最終処分場を先に造るべきだと思うが、今の状況では10年持つのも3年で終わると思う。だからごみの出し方の徹底、もうちょっと危機感を与えて、自分の所に造るなら反対、他所に造るなら静かにしている。あれでは絶対駄目。マスコミの方も一緒にもうちょっと騒ぎ立てて欲しい。
- **委員**：基本的に今頃金が無いと言っても困る。私は住民委員会の時からもう6年位なるとは思いますが、その時から処分場に金がかかると言う部分は分かっているわけです。視察研修のまとめ等でも委員の皆さんも負担金の対応能力はあるのか心配、施設は造りたいが金は無いと言っている。この辺の基本的な事からきちんと整理していかないと、委員会で時間かけて議論して金が無いというのはおかしい。それと灰溶融の話が出てきているけど、糸豊に溶融施設をつけたら終わりなんです。処分場そんなにいらなくてすよ。東部が基幹改良、これから10年位使えるわけですが、東部に灰溶融施設をくっつけばいいですよ。ほとんどスラグぐらいで、処分場いらなくてすよ。こういう議論が出てこない。頭から処分場単独で別で造ると。ごみ処理の基本的な計画そのものが恐らく無いんじゃないか。議論した事もないし。そういう基本的な事から整理していかないと今の段階では処理方式を決めても出来ない可能性があるんですね。この辺がきちんとしない限り用地選定にも入れないと思います。住民に説明する必要もあるし情報をきちんと開示しないといけません。その辺を整理しながら進めていくと。だから第1部会でない部分で、理事会あたりでやるのかその辺を詰めて。南部の全町村の総力を挙げてやる事業ですから、今のような議論ではちょっと疑問を感じます。

- **委員**：糸満の件について私見を述べてみたいと思います。糸満については西平市長が前南廃協の理事会の中で議長から迫られて離脱宣言をしたわけですね。それは糸満には南部のごみは持ち込ませないという堅い信念といいですか、公約のようなものがあって、それで離脱に追い込まれたわけでありまして、しかしながら離脱となると、南部のごみを持ち込まないのであれば、自分達のごみは自分達で処理しないといけないという当然の流れでありまして、そうすると自分達で造るべきだが、それでは造れないという事になって自己膠着になってしまう、立ち往生してしまうわけですね。恐らく市長も或いは議会も2度も否決しながら、今どうしたらいいものかと、振り返って反省と戸惑いと困惑というんですか、そういう風な中にいると思います。恐らく打開策をどこかに求めながら何とかしないといけないということで、多分今度の9月議会あたりが大きなヤマになるのではないかという気がします。何らかの動きがあると聞いていますので、この件は何らかの決着がつくのではないかという気がします。ただ、政治的に議会と市長といいですか、膠着しているような状況がどういう風な形で決着が図れるかというような点にかかっていますので、お互いにどこで妥協していくか、市民の立場を考えながら何処に妥協点を見出していくかという事は両者にかかっていますので、両者が南部全体の大局的な立場に立って答を出す事が出来るかどうか、この辺に大いに期待をしたいなという風に思っております。ただ、我々としては経済効率性という点から行くと糸満さんが入ったほうがいいわけですから。その点については先程委員から頭を下げてまでお願いすべきでは無いという話もあったわけですが、それも筋だとは思いますが。何らかの形で、頭を下げずして向こうが白い旗を掲げてもう一回戻してくれと言うのであれば、それが最良の解決法じゃないかなという気がします。その点については本来ここで議論すべきテーマではないかも知れませんが、そういう話が出ているという事については、一応理事会に付随的な意見として上げるべきではないかと思えます。
- **委員**：先程委員から大変厳しい指摘がありました、6年前からすでに最重要課題としていながら財政的な担保が全然作られていないという事について、ごもっともだとは思いますが、色々釈明もあると思うんですけども、その間に市町村合併の行政スケジュールも出てきてですね、どんどん削られてるという事もあるでしょうし、次々と経済財政諮問会議の中でも地方自治体も財政に苦慮しているような制度改革がなされていますので、6年前と財政事情はそういった意味では違ってきていると思います。
- **委員**：焼却残渣の処理については、東部が倉浜にお願いして先程も話したような結果になっています。喫緊の課題だと私も受け止めています。財政の問題を抜きには考えられないと思います。おっしゃる指摘も分かるんですが町村の立場からしますと、今のほうがいいですよ、本当は。どこかが処理してくれるんだったらその方がいいんですね。ただ、そういう訳には行きませんので対応せざるを得ないという事で広域化をしようという話が出たわけですので私共としてはそれはそれで言い訳になるかもしれませんが、そのように一応努力はしていると。内部でも実際、緊急財政健全化計画の中でも色々議論をしています。財政的に本当に今のサザン協の進めてるような方向でいいのかどうかという事も含めて、果たしてどの程度の負担金が必要になるのかどうか、これは色々議論が分かれる所でありまして、全く行政側が努力してない、何も考えていないという

事にも私はならないと思います。並行して考えておりますので是非ご理解を頂きたいと思ひます。

- **委員**：皆さんの意見は出尽くしているような感じがするんですが、先程の被覆型については問題はなかった、2番目のケースについてはこういう風にすれば解決できるのではないかという風に、また3番目については財政の問題も出ております。確かに、財政については色々ありますけども厳しいのは大変厳しいわけですよ。しかしながら話があるようにこれは避けては通れない問題で今（倉浜に）お願いしている状況でありますので。ただ私も皆様方の意見を拝聴している中では、やはりこの委員会の中でこれこれ、すぐこれにというのはちょっとどうかと。逆にそれぞれについて考察されておりますので、理事会の方に部会の中では、この辺についてはこのような意見があった。各問題点があった。ケース2についてはこうですけど、こうだった。ケース3についてはこうなりますと。事務局が整理されています。皆さん方の意見をです。そうでありますので財政の問題も色々な問題も、また先程ありました東部の問題、島尻の問題、糸豊の問題も色々理事会の中では議論されると思ひますので、逆に3つを評価してこれをこのように第1部会の中では議論をしてそれぞれに評価を加えてありますと。それを理事会の中でどれに決定するかは判断してはどうですかというのも一案ではないかなという風に思っているんですよ。ここですぐ一つに絞るのはこれは大変厳しい。理事会にあれして一つをやるとなると理事会の中でまた逆にこれ一つに縛ってしまうとどうかという部分がありますので、そこら辺をですね私の意見としては逆に3つをこう評価しましたと。言うのがどうかと思ひております。
- **委員**：上記の委員の意見に賛成。最初に選定条件をチェックさせていただきますといたのはそれだったんですよ。と申しますのは一括処理施設の中身をお聞きしたかったんです。実は。一括処理施設の中に埋立地の掘り起しごみがあるんだと。先程も出ましたので。埋め立てておいた後でって。そういうのがあるのか。今度、汚泥の処理があるのか、下水道もしかり。これも一括で入れるのか、可燃の破損ごみも一括で入れるのか、一番今ものすごい悩んでるのが、ごみが多くなっているのは医療廃棄物なんですよ。前からずっと言い続けてますけど、本当に島尻は15年も遅れてます。はっきり言って。やっと今度条例が2箇所は出来ました。各市町村に条例をもらいに言ったのもこれがあります。取組むか取組まないか。条例が出来てないところもありました。もらえないところもありました。そういう所から公開しないと駄目なんです。在宅ケアの医療ごみというのがすごいあるんですよ。それと、産業系の廃棄物も入れるのか他市町村からの有料ごみも、一括処理施設であるならば受け入れるのか。こういうのを全部出した上で、この処理施設がNOと言うんだったら話は分かりますよ。
- **委員**：医療廃棄物については特別管理の廃棄物で、これは産業廃棄物の中で議論する話なんですよ。これが一般ごみに入っているんだったら問題は別の問題。
- **委員**：今家庭系の医療廃棄物です。みんな。在宅で糖尿だとか色々な注射打ってるんですよ。この指定袋もここでは出来てないんですよ。本来ならばここが全部ちゃんとして、じゃ、これは病院にちゃんと帰してくださいよと市民に徹底をする。医療間もちゃんと袋を渡して処理をして下さいというのをやってる所とやってない所があると思ひ

ます。これから高齢化になって在宅医療が、新聞でも一度・・・、後で資料調べますけど指摘されています。そういうのを入れた上の一括処理する灰溶融施設、ガス化溶融施設を導入するという中身を確認をしたかったんですよ。そしてそれでもなお、これは次の段階にやろうっていう中身をお聞きしたかったんですよ。それともう一点、灰溶融施設は本当に今ある施設、もったいないと思います。金が無いといいながら何故これを使わないのか。それをだからメリットデメリット、島尻と将来的に見ても皆さん分かると思います。糸満と実際にあるのを使わないともったいない。しかしながら、じゃあ島尻。どうするか、あと何年持つか。この計画の中で本当に持てるのか、だったらどうするか。一番南城市さんが今後また悩んでくると思いますよ。最終的に。本当に大局に立ってお互いが出来るか出来ないか今後は市民も分かっているって事だけは、何も委員会だけの話ではありませんので。住んでみてる人もいますよ。そういう中でごみの質の条件がいっぱい出てくるんですよ。そうでないと、ただ処分場だけ造って今のあるごみをどんどん埋めなさいでもいいのか。ですから今後は是非行政側ももっともっと本音で話をして頂きたいと思います。この問題は委員からもありましたけど、東部に灰溶融施設を造るんだったら、今度は一番悩みである南城市さんが最終処分場を引き受けるよとか、そういうお互いの話し合い、じゃあ豊見城は処理施設が全然無いからどうするかとかという事も本音で皆さんが一番決めないと、システム作りはある程度は行政がお金を握ってますので、そうすれば解決の方法は早いと思います。

- **委員**：議論は出尽くされておりますすけども、なかなか明るい展望が開けないもどかしさがあるわけなんですけど、第1部会という範囲の中でとなると私は個人としてどんな存在なのかと非常に自問自答しながらここまで来たわけなんですけど、さっき勇気を出して委員から自治体の方々に痛烈なとか建設的な意見があったわけなんですけど、私も前から言おうかなと思っていたんですけど立派な方が4名前に座っておられるものですから、非常に言いにくくてですね、もやもやしなながらここまで来たんですけど、第1部会の枠組みの中で4名の（副長の）皆さんもうちょっと主導権を握って、この部会を引っ張っていくというリーダーシップを発揮しないと、保守的になって財政どうなんだろう、議会どうなんだろうとかという事にあんまり神経を使うとどうにもならないんじゃないかなと。委員に要約して頂いたんですけど、そういう方向であれば理事会にも、きちんと物を言っていくという事で、自治体の皆さんもう少し・・・。私はリーダーの条件はやっぱりトラブル解決能力が高いほどいいという事を言った事があるんですけども、自治体の皆さんが是非この第1部会を引っ張っていくと、そういう力強さが欲しいなど。
- **委員**：第1部会が処理方式と候補地を決めてくれと、選定ですね。仕事ですから。でもなかなか現時点では難しいという事で、お互いの議論したのをそのまま理事会にあげた方がいいのかなと私も思います。ただ、現在、実際に中城・北中城の処理ですかね、その残渣を民間の会社が取扱っているという話を聞きましたが、この辺本当かどうか私もはっきりしないんですけど、それを例えば我々が今倉浜に預けている。それを民間が引き受けてくれるかどうか調査する必要があるのかどうか。もう一つはネックになるのは一番身近な問題として住民がしっかり議論してるのか、理解してるのかと、ごみの問題

を。その辺が非常に気になります。もちろん行政組合も非常に努力されていますが各市町ですね、このごみの問題についても市町村もしっかり議論して住民と一体になって考えないと、最終処分場造ろうが何造ろうが、負担金の問題も含めて色々あるだろうなという思いがあります。その辺をですね原点に帰ってごみの問題についてやっていただいて、住民自体が考えるように、そういう風なのを運動として作り上げていかないといけない。どうせ理事会にあげるなら、その辺を申し加えていただきたい。

- **委員**：糸満の動きを見ると言っているが、これがはっきりしないと決定できないと思うんですが。糸満がどうなるか分からないのに決定できるのかと議会で言われると思うんですよ。そこら辺をきちんとしないと何も決まらないと思う。
- **委員**：スケジュール上は8月中に方式の選定をしていく。12月までに最終処分場があるのであれば、その部分を含めて候補地の選定をしていくという事になっていますので、とにかくスケジュールに沿って粛々と進めていくと。糸満は糸満で、もし糸満から声がかかれば対応していくと。糸満の声かけの内容によってこちらで決めていけば良いわけですから、そういう風な態度で臨んでいけばいいんじゃないかなという風に思います。ですから軸は行政スケジュールに沿ってここはここで進めていきましょうと。糸満の出方によって、対応すればそれはそれでいいと思います。今度の9月議会前後が恐らくヤマになってくるんじゃないかなという風に思いますけど、部会或いは理事会の決定はこういう風になりましたという事は内外に報道されますので、その動きも含めて糸満の議会、行政部局も情報収集に努めているとすればですよ、自分達の態度はどういう風にすべきかという事は内々にすでに検討が始まっているという風に考えてもいいだろうと思います。いい方向で検討されている、いい方向で収集されていく。という風なことを期待しながらですね、我々は進めていこうと。こういう事です。
- **委員**：もし糸満市が入りたいという事になって、処理方法が入る事によって変わる事もあると思うんですけどもその場合は大丈夫なんでしょうか。
- **委員**：その事ですね、一応、その他と言うんですかね、その他としながら選択の幅を広げておいたほうがいいのではないかと。
- **委員**：コストの面とかその辺の事も含めて我々の意見はほとんど挙がったと思う。こういう3つの方法からという部分で色々な意見が出ていると思う。それをもう少し整理して、それで良ければそれで出していいんじゃないかと思う。第1部会は。
- **委員** 3つのケースをあげていくという事について賛成です。色々細かい点があがってきて実際これに入っていない国の交付金がありますよね。それについて例えばこのケース1で行くと、それが考えているように1/2ちゃんと出るのかどうかというのもあるし、今全く考え方が違ってきているんですよ、交付金出ず場合も。廃棄物を処理するだけの施設に出さないという事もあるんですよ。リサイクルを含めてそういう施設を一緒にやらないと出来ないとか、いろいろ言われる場合もありますので。この辺ももっと決める段階では調べておく必要があるんじゃないかなという気がしますね。今は発電施設ありますよね。ああいう風にやるから交付金が出るわけですよ。埋立処分場だけで果たしてこれも出来るのかですね。非常に問題もありますので、県の方とも調整しながらやらないといけない。

【確認事項】

- ・ケース1、2、3とそれぞれ考察を加えたものに沿って議論をしてきた。いずれのケースについてもコスト面などで一長一短があり、より高度な政治判断が求められている。よって、第1部会としては3方式を並列で理事会にあげて、理事会で処理方式を決定してもらう。
- ・スケジュールについては資料-3のとおり確認。

2. 今月のスケジュールについて……………資料-3

8月22日(水)	第1部会	14:00~16:00
	理事会・第1部会合同会議	16:30~18:00
	懇親会	18:00~
8月23日(木)	会長調整	15:30~
8月24日(金)	正副会長会議	9:30~11:00
	市町長会議	11:00~12:30
	議長会議	13:30~15:00
8月31日(金)	理事会	15:00~

3. その他……………特になし。